ソーシャルワーク実習プログラム内容と特徴

●ソーシャルワーク実習指導及びソーシャルワーク実習のねらいと教育内容

本学にて開講している「ソーシャルワーク実習指導 I 」・「ソーシャルワーク実習指導 II」・「ソーシャルワーク実習指導 II」・「ソーシャルワーク実習 II」は、社会福祉士受験資格を得るための指定科目にあたり、これらの科目の教育内容(ねらいと教育に含むべき事項)は、以下の表のようになっています。

本学では、「ソーシャルワーク実習指導」の内容を2年次後期の開講科目「ソーシャルワーク実習指導 I」と、3年次前期開講科目「ソーシャルワーク実習指導 II」及び3年次後期開講科目「ソーシャルワーク 実習指導 II」において、学習することになっています。また、「ソーシャルワーク実習」は、2年次の春期休暇に「ソーシャルワーク実習 I(60時間)」、3年次の夏期休暇を中心に「ソーシャルワーク実習 I(180時間)」にて行います。

※「社会福祉に関する科目を定める省令(令和2年3月6日一部改正)」 別表1

科目名	教育内容	
	ねらい	教育に含むべき事項
	7.1	に掲げる事項について個別指導及び集団指導を行う
ソーシャルワーク実 習指導	50	のとする。
	① ソーシャルワーク実習の意義につい ①	実習及び実習指導の意義(スーパービジョン含
(※本学では関係省通	て理解する。	ರ್.)
知に基づき、「ソーシ	2	多様な施設や事業所における現場体験学習や見学
ャルワーク実習指導	② 社会福祉士として求められる役割を	実習
I 」・「ソーシャルワ	理解し、価値と倫理に基づく専門職 ③	実際に実習を行う実習分野(利用者理解含む。)
ーク実習指導Ⅱ」・	としての姿勢を養う。	と施設・機関、地域社会等に関する基本的な理解
「ソーシャルワーク実	4	実習先で関わる他の職種の専門性や業務に関する
習指導Ⅲ」の科目名で	③ ソーシャルワークに係る知識と技術	基本的な理解
開講しております。)	について具体的かつ実践的に理解 ⑤	実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規
	し、ソーシャルワーク機能を発揮す	範と倫理・知識及び技術に関する理解
	るための基礎的な能力を習得する。 ⑥	実習における個人のプライバシーの保護と守秘義
		務等の理解
	④ 実習を振り返り、実習で得た具体的 ⑦	実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解
	な体験や援助活動を、専門的援助技 ⑧	実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との
	術として概念化し理論化し体系立て	三者協議を踏まえた実習計画の作成及び実習後の
	ていくことができる総合的な能力を	評価
	涵養する。 9	巡回指導
	10	実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理と実習
		総括レポートの作成
	11	実習の評価及び全体総括会

	教育に含むべき事項 は次に掲げる事項について実習指導者によ を受けるものとする。
 通知に基づき、「ソーシャルワーク実習 I」・「ソーシャルワーク実習 I」・「ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。 ② 支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)について把握する。 ③ 生活上の課題(ニーズ)に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。 ④ 施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。 ⑤ 総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。その具体的内容を実践的に理解する。その具体的内容を実践的に理解する。 	該実習先が地域社会の中で果たす役割の理 及び具体的な地域社会への働きかけ 域における分野横断的・業種横断的な関係 成と社会資源の活用・調整・開発に関する

※上記科目の詳細につきましては、大学全体のシラバス検索データベースにて検索のうえ、 閲覧ください。